

令和4年度施政方針

令和4年度の一般会計をはじめ各特別会計等の予算並びに関係諸議案の審議をお願いするにあたり、私の市政運営についての基本的な考え方と主要施策等の所信を申し述べさせていただきます。市議会並びに市民の皆様の御理解と御協力をお願いいたしますと存じます。

【はじめに】

今月4日から始まった北京冬季オリンピックが一昨日閉幕をいたしました。また、昨年は57年ぶりに東京でオリンピック・パラリンピックが開催されました。多くの競技でのメダル獲得、新たな競技種目での若い世代の躍動など、日本選手の活躍はもちろんのことですが、それぞれの役割や目的を持った上で一人ひとりの選手が活躍し、共に力を合わせて創り上げられたオリンピック・パラリンピックは、私達に感動や希望を与えてくれるだけでなく、最後まで諦めることなく目標をしっかりと持ってチャレンジすることの大切さを改めて教えてくれました。

そして、本年、2022年は、宮津が誇る天橋立が、史蹟名勝天然記念物保存法に基づき1922年3月8日に「名勝（海浜景観の第1号）」に指定されてから100年、文化財保護法に基づき1952年11月22日に名勝の中でも特に重要なものである「特別名勝」に指定されてから70年を迎える「記念すべき一年」となります。

私は子どもの頃から毎日、天橋立を見て育ちましたが、天橋立は地域経済を支え、この地に住む人の心を支えているだけでなく、この地に丹後の国の国府がおかれて1300年、今なお変わらぬ「ふるさとの宝」であります。

宮津はこの天橋立だけでなく「宝」あふれる豊穡の地であり、その価値を住民自らが理解し、共有し、発信することができれば、世界に通じるブランドになりうると思っております。

「宝あふれる みんなのふるさと 宮津」が「明るく豊かな宮津」となるよう、宮津に関わるみんなが主人公になって、共に一步を踏み出し、つながりを持ちながら、様々な橋をつないでいくという思いで「夢と希望があふれ 住み続けられる まちづくり」をともに進めていかなければならないと考えております。

また、私は、市長就任当初から「人口が減少していくこれからの時代、これまでどおりの行政まかせの地域は衰退していくとの危機感をもっており、まちを変えていくためには、そこに住む人、関わる人、一人ひとりの意識と行動の変革が必要ではないか。」と申し上げてまいりました。

これからの宮津のまちづくりにおいては、地域を支える大切な基盤であり、活力ある持続可能な社会を構築していくための原動力となる「人づくり」を中心とした上で、市民の皆様と共にこれからの宮津を創り上げていくという理念の下、『第7次宮津市総合計画』で掲げた将来像「共に創る みんなが活躍する 豊かなまち“みやづ”」を目指し、人口減少の克服や地域経済の再生に向け、「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」と「宮津の宝を育むチャレンジプロジェクト」の2つの重点プロジェクトに果敢にチャレンジしていかなければならないと考えております。

既にこの間、「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」では、宮津に住む若者や子育て世代が「住んで良かった、宮津で子育てして良かった」と感じてもらえるよう、妊娠期から就学期まで切れ目なくサポートするとともに、子育て応援事業所認定制度や、子育て支援センター「にっこりあ」を中心にした子育て世代のネットワーク形成、子どもの居場所づくりなど、地域みんなで子どもを育むまちづくりを進めているところでございます。

また、宮津商工会議所、京都北都信用金庫と一緒にあって、事業所の経営力向上や地域課題の解決を図るために「MIYAZU未来デザインセンター」を立ち上げ、都市部からの副業プロ人材と地元の事業所とのマッチングサポートを行うとともに、市役所でも「7人の侍」ならぬ「7人のMIYAZU未来戦略マネージャー」

と共に「観光まちづくり」「関係人口づくり」「業務改革等の行政DX」の課題解決に向けた取組を進めています。この副業人材活用プログラムをベースに、北部7市町の商工会議所・商工会を中心とした「海の京都」未来共創ネットワークが立ち上がり、企業等が都市部からの副業プロ人材を受け入れて進める「次世代地場産業創出支援プロジェクト」が展開されているところです。

「宮津の宝を育むチャレンジプロジェクト」では、テレワーク等のデジタル化に向けた投資や創業・第二創業等への支援制度と合わせて、次代を担う人づくり、新たな若手経営者等の育成のための「未来天橋塾」を開講し、市内の若手事業者が、市外の複数の起業家からノウハウや経験を学び、チャレンジ精神を持って、仲間とともに新たなビジネス目標へ挑戦されるなど、共創の輪を拡げていただいているところです。

今後も、これらの「宮津の将来に向けた新たなチャレンジ」の歩みを、力強くスピード感を持って進めていかなければなりません。

また、昨年も、新型コロナの感染拡大に伴う度重なる緊急事態宣言により、市民の皆様にご不便とご苦勞をおかけしましたが、市民の皆様の命と健康、暮らしを守るため、私からも市民の皆様にメッセージを発信し、生活や社会活動における一定の制限など、感染拡大防止に御理解と御協力をお願いするとともに、全力でワクチン接種をはじめとした感染防止対策や生活支援、経営支援などの様々な対策を講じてまいりました。

この間の市民の皆様、事業者の皆様、福祉・教育関係の皆様の御理解と御協力に対し、改めて厚く御礼申し上げますとともに、医療現場の第一線で御奮闘いただいております医療従事者の皆様に心から感謝を申し上げます。

依然として、新型コロナの流行は世界中で続き、現在は変異株(オミクロン株)による第6波が猛威を振るっております。

今後においても、気を緩めることなく、この状況を乗り越え、市民の皆様が安心して生活が送れるよう、迅速に3回目のワクチン接種を進めるなど、新型コロナ

対策を最重要課題としてしっかりと取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

さらに、先般開会された第 208 回国会の施政方針演説で、岸田総理は「経済あつての財政。経済を立て直し、財政健全化に向けて取り組む。」という考えのもとで、新型コロナとの闘いに打ち克ち、経済を再生させるため、危機に対する必要な財政支出は躊躇なく行って万全を期しながら、経済再生の要を「成長と分配の好循環による新しい資本主義の実現」として、国民一人ひとりが豊かで生き生きと暮らせる社会をつくるとともに、持続可能な経済社会の実現に向けた歴史的スケールでの「経済社会変革」に挑戦していくことを示されました。

また、「新しい資本主義の主役は地方」とした上で、「デジタルを活用した地方の活性化」などの「成長戦略」や「人への投資の抜本強化」などの「分配戦略」、気候変動問題の克服を、脱炭素の実現と新しい時代の成長を生み出すエンジンとする「クリーンエネルギー戦略」などが示されております。

そして、全ての人生きがいを感じられる、多様性が尊重される社会を「新しい資本主義を支える基盤」とした上で、「観光産業の高付加価値化」や「日本の魅力の世界発信」などの「地域活性化」なども展開していくことによって、日本の未来を切り拓いていくとされており、本年、令和 4 年が、我々地域が主役となった上での新たな全国的なチャレンジが実質的にスタートする年となります。

本市では「令和 4 年は、天橋立名勝 100 年、特別名勝 70 年。橋をつなごう、次の 10 年、そして、100 年に。」改めて私達の宝である天橋立の素晴らしさを市民の誇りとして共有するとともに、豊かな自然、歴史文化を次代へつないでいくため、SDGs・カーボンニュートラルの重要性を再認識し、地域全体で「天橋立の世界遺産登録」に向けた取組を更に進めるとともに、持続可能で豊かな宮津の将来像を描き、市民みんなが活躍できるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

【市民みんなが活躍できる豊かなまちづくりに向けて／令和4年度重点施策】

こうした中、令和4年度当初予算は「第7次総合計画を強力に推進する『未来を創るスピードアップ予算』」として、総合計画が2年目を迎える中で、人口減少の克服や地域経済の再生に向けた「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」と「宮津の宝を育むチャレンジプロジェクト」の2つの重点プロジェクト、また、「環境対策」「行政DX」「施設長寿命化等の公共施設マネジメント」の3つの重点事項を、強力かつスピーディーに推し進めるとともに、国の補正予算等による財源を最大限活用しながら、令和3年度3月補正予算と一体的な予算とし、「共に創る みんなが活躍する 豊かなまち“みやづ”」と「中長期的に安定した行財政基盤の構築」を目指しながら、市民の皆様の生活や事業者の経済活動を支えるために新型コロナへの対応に万全を期すものとして編成をしております。

まず、2つの重点プロジェクトの具体の取組についてでございますが、

1つ目の重点プロジェクト、「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」でございます。

宮津に関心がある人、宮津に住みたい人を増やすため、

都市部等からの副業プロ人材「MIYAZU未来戦略マネージャー」の受入を継続するとともに、本年5月にオープン予定の「前尾記念クロスワークセンターMIYAZU」をワーケーション等の中核拠点として、都市部人材と地域住民との交流の場の創出や副業プロ人材の活用などにより、地域と多様な形で関わる人々である「関係人口」の創出・拡大を図ってまいります。

また、『第2期宮津市空家空地対策計画』の策定や京都府移住促進特別区域の拡大を踏まえ、「地域とともに空家空地を活かす」ことを基本に、住まいの終活・空家相談会や地域での「お試し住宅」整備への支援などを行うとともに、みやづ城東タウンをリノベーションし、介護・医療・保育といったエッセンシャルワーカー向けの優先入居枠を設定することなどにより、移住・定住人口の創出を図り、

宮津で暮らしたいと感じてもらえる多様なライフスタイルの実現を目指してまいります。

宮津に住みたい、宮津に住み続けたいと思える環境を整えるため、

妊娠期から就学期までの一人ひとりに寄り添った切れ目ない支援を展開する子育て世代へのサポート拠点である宮津市福祉・教育総合プラザにおいて、子育て支援センター「にっこりあ」を中心に子育ての輪づくりを進め、「親子で楽しむ遊びと学びラボ」の開催やSNS等を活用したパパママライターによる情報発信、子育て応援情報誌「みやづすくすく応援ガイド」のリニューアルなどにより、保護者同士の交流の促進や地域の子育て支援の核となる人材の育成につなげるとともに、こども食堂を運営する団体への支援を行ってまいります。

また、市全体の保育・教育サービスの向上のため、保育士等を対象とした研修の強化、就学前施設の長による保育サービス拡充・適正化研究会を開催するとともに、新型コロナ対応の最前線で働く保育士等の処遇の改善、障害加配保育士の配置基準の拡充をしてまいります。

学校教育においては、1人1台タブレット端末の配備が完了し、今後、デジタル化が一層進展する中で、ネット環境のない家庭等へのモバイルルーターの貸出しや全のびのび放課後児童クラブでのWi-Fi環境の整備などにより、オンラインでのAIドリル等を活用した家庭学習を開始します。就学前から10年間を見通した小中一貫教育やコミュニティ・スクールなどに加え、ICTも活用しながら、明日の宮津を担う子ども達がそれぞれの能力や個性を活かし、様々な場面で活躍できるよう、宮津ならではの新しい学びの創造を進めてまいります。

また、農山漁村の新たな担い手の受入に向け、体制を構築するための取組を新たに支援するとともに、担い手候補を呼び込むため、農業体験プログラムの実施による「半農半Xインターンシップ」を新たに展開してまいります。

2つ目の重点プロジェクト、「宮津の宝を育むチャレンジプロジェクト」でございませう。

地域で活躍する「人」を育成するため、

引き続き、次代を担う若手経営者等を育成する「未来天橋塾」を開講するなど、志を持って頑張る人をしっかりと応援してまいります。

「人財」が活躍できる環境を整えるため、

宮津の宝である「天橋立」の世界遺産登録を目指して京都府や与謝野町とともに進めてきた「天橋立を世界遺産にする会」を中心としたこれまでの取組に加え、令和4年を「天橋立に触れ楽しむ期間」と位置付け、「天橋立名勝100年・特別名勝70年記念事業」を展開するとともに、最先端技術を活用した歴史文化資源の国内外への発信や文化財等の観光コンテンツ化などにより、歴史文化を活かした観光誘客を推進してまいります。

また、『宮津市観光戦略』に基づき、地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化を強力に進めるため、外部人材を活用した中長期的なプランを策定し、面的な観光地再生に資する事業を推進するとともに、満足度の向上や観光消費額の拡大に向けた観光地域づくりと広域自治体連携による持続可能な観光モデル市町村の形成を図り、世界から選ばれる観光地を目指します。

商工業・農林水産業振興においては、引き続き、コロナ禍から脱却するためのデジタル化への投資、新たなものづくりや創業・第二創業等にチャレンジする取組を支援し、将来にわたり活躍する人材・企業の育成を図り、地元農産物の販売力強化や域内流通促進を図るとともに、大和学園との連携を深化させて「美食のまちづくり」につなげてまいります。

加えて、ゴールデンウィークにグランドオープン予定の「田井宮津ヨットハーバー」を中心に、地元地域や民間事業者等と連携し「田井臨海エリア」の新たな魅力づくりやにぎわいづくりを進めるとともに、天橋立を望む眺望に優れアクセスも良い「島崎ウォーターフロントエリア」について、民間資本導入による再開発に向けたヒアリング調査や構想計画立案を行い、本市の大きな魅力である海を最大限に活用した新しい価値を創りだしてまいります。

次に、3つの重点事項への対応についてでございますが、

1つ目の重点事項は、「環境対策」でございます。

一昨年6月に「2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロ」の宣言を、昨年10月に与謝野町との共同で「気候非常事態宣言」を行い、合わせて『宮津市環境基本計画』を策定する中で、脱炭素社会の構築に向けて、再生可能エネルギーの普及・活用に向けた調査を更に深めていくとともに、可燃ごみの状況調査・資源化研究やITサービスを活用したリユース事業の研究を行いながら、「宮津市廃棄物減量等推進審議会」を開催し、ごみの減量化・資源化に向けた取組を進めてまいります。

また、天橋立をフィールドにし、ビーチバレーボール大会に合わせてスポーツ要素を加えた清掃活動「スポGOMI」や環境の保全・継承につながる機会づくりなどの賑わいイベントを行うとともに、昨年9月設置の「宮津市SDGs地域プラットフォーム」での意見交換や『宮津市版SDGs推進アクションプラン』の策定を踏まえ、SDGsによる持続可能な地域づくりに向けた担い手育成につなげてまいります。

2つ目の重点事項は、「行政DX」でございます。

昨年6月に「宮津市DX推進本部」を設置して、行政DXを担う2名のMIYAZU未来戦略マネージャーと一緒に市役所の業務改善等に向けた取組を進めている中で、マイナンバーカードを活用した引っ越しワンストップ化などのデジタル技術を活用したサービス等の高度化・向上を図るとともに、『宮津市DX推進計画』を策定し、市民生活の利便性の向上や地域課題の解決につなげてまいります。

3つ目の重点事項は、「施設長寿命化等の公共施設マネジメント」でございます。

真に必要な行政サービスを長期安定的に提供していくために、『公共施設再編方針』において存続させることとした施設について、将来に向けた必要な投資を計画的に実施していく必要がある中で、宮津ターミナルセンターと立体駐車場の劣化状況調査・長寿命化実施設計、養老地区公民館の放射線防護施設整備に

合わせた長寿命化実施設計、地域ささえあいセンターと栗田地区公民館の長寿命化工事などを行うとともに、市役所庁舎のあり方について検討を進める中、未来を担う市民からアイデアを募り、基本構想立案に向けた準備を進めてまいります。

次に、5つのテーマ別戦略における主要な取組についてでございます。

地域経済力が高まるまちづくりでは、農林水産業振興において、農業者の生産意欲を低下させている有害鳥獣による農作物等の被害防止に向けて、引き続き駆除業務の実施や防除活動の促進を行い、減容化処理施設の適正化に向けて大型冷凍庫を増設するとともに、ジビエハンターの養成やジビエ捕獲の効率化に向けた研修など、ジビエの利活用を推進してまいります。

住みたい、住み続けたいまちづくりでは、子育て支援において、小学校の敷地内に19時まで開設しているのびのび放課後児童クラブの全てを法人委託とし、民間のノウハウの活用によるサービスの向上を行ってまいります。

安全・安心に生活でき、環境にやさしいまちづくりでは、社会基盤・防災減災において、『宮津市国土強靱化地域計画』に基づき、滝馬川河川整備工事をはじめとした河川氾濫対策や雨水排水対策など、総合的な浸水対策を推進するとともに、『宮津市通学路等交通安全プログラム』等に基づき、子ども達の安全・安心を確保する通学路等の歩行者対策や、橋梁の長寿命化等の暮らしの安全・安心を確保するインフラ整備を進めてまいります。

また、地域防災の要である消防団の団員報酬・出動手当を増額改定して、消防団組織の維持確保により、防災力、災害時対応力の維持強化を図ってまいります。

公共交通において、広域及び市の『地域公共交通計画』策定を踏まえ、過度な自家用車依存からシフトするための公共交通の利用機会の創出、先進モビリティサービスの導入に向けた検討など、持続可能な公共交通の仕組みづくりを進めてまいります。

健康でいきいきと幸せに暮らせるまちづくりでは、地域福祉において、「宮津市

成年後見支援センター」を開設し、成年後見制度に係る相談や利用支援、普及啓発を行うほか、支援の必要な人を早期発見し、適切な支援につなげるため、関係機関相互の連携強化を図ってまいります。

また、健康・医療において、将来にわたり安心して医療を受けられる環境の維持、健康寿命延伸のため、京都府立医科大学附属北部医療センター等と共同で、医療・健康づくりに係る研究事業を展開するとともに、京都府内初となるデジタル技術を活用した医療MaaSの実証事業を実施し、持続可能な地域医療・健康づくりにつなげてまいります。

ふるさとを大切に学びを深めるまちづくりでは、文化・スポーツ振興において、企業版ふるさと納税等を活用し、積極的にスポーツ活動に取り組む団体を支援することで、ジュニアスポーツの育成・組織強化を図るとともに、スポーツ大会の誘致等を進めて、「スポーツ×観光のまちづくり」につなげてまいります。

【新型コロナ対策】

また、依然として、新型コロナの第6波が猛威を振るっている中で、この状況を乗り越え、市民の皆様が安心して生活が送れるよう、**新型コロナ対策**に係る財政支出は躊躇なく行って万全を期してまいります。

具体的には、「感染防止・健康保持対策」として福祉・教育施設等の感染防止対策の強化、「生活支援・経営支援対策」として介護従事者の負担軽減対策や公共交通事業への支援を行ってまいります。また、「経済回復対策」として宮津天橋立観光V字回復に向けた観光誘客キャンペーンやプレミアム付き商品券発行支援などを行うとともに、子育て世帯への応援商品券の配布などにより「子育て支援・教育環境の充実」を図ってまいります。

【健全な行財政運営】

以上、これまで申し上げました『第7次総合計画』の取組や新型コロナ対策を進める一方、忘れてはいけないのは健全な行財政運営でございます。

『第7次総合計画』の将来像「共に創る みんなが活躍する 豊かなまち“みやづ”」を市民の皆様と共に実現していくためには、新たな行政需要に対応できる安定した行財政基盤の構築が必要不可欠であります。

そのために、現在、『第2期行財政運営指針』に基づき、財政健全化の取組を待たなしで進めているところであり、まだまだ道半ばではありますが、その成果は数字となって徐々に現われているところでございます。

こうした中で、引き続き、事業の「選択と集中」は勿論のこと、職員定数の見直しを確実に実行するとともに、「行政DX」にしっかりと取り組み、業務の効率化、多様な働き方の実現につなげてまいります。

併せて、「施設長寿命化等の公共施設マネジメント」をしっかりと進め、公共施設の再編による行政コストの最適化や官民連携を積極的に取り入れた市有財産の有効活用を一層推進してまいります。

さらに、新たに「持続可能な行財政運営有識者会議」を設置し、外部委員から、持続可能な歳入確保や行政サービスのあり方について具体の提案・助言を受け、行財政運営の健全化を推進し、将来を見据えた行財政基盤の構築につなげてまいります。

【市民との協働】

また、令和4年度は、『第7次総合計画』の2年目となります。計画で掲げる将来像「共に創る みんなが活躍する 豊かなまち“みやづ”」の実現に向けた5つの視点の一つ「市民協働」を大切にして、市民の皆様としっかりと話し合い、持続可能な地域を目指して、各地域（エリア）を越えた連携のあり方・方法等や地域コミュニティのあり方を一緒に考えていきたいと思っております。

【予算概要】

最後になりましたが、予算の概要について御説明をいたします。

今回の予算は、財政健全化の取組を強化するとともに、「第7次総合計画を強力に推進する『未来を創るスピードアップ予算』」として、人づくりなどに集中して編成し、令和4年度の一般会計予算額は対前年度比0.6パーセント増の109億95万1千円であります。

一般会計の財源は、市税、地方交付税等の一般財源が74億9,915万1千円、国庫・府支出金、市債等の特定財源が34億180万円であります。

また、13の特別会計の予算額を53億5,152万9千円、2つの公営企業会計の予算額を29億8,448万3千円とし、一般会計と合わせた予算の総額は192億3,696万3千円で、対前年度比1.0パーセントの減としております。

さらに、国の補正予算も活用しながら、令和3年度の3月補正予算と令和4年度当初予算とを一体的に編成し、令和4年度当初予算と令和3年度3月補正予算との合計は、112億407万3千円で、対前年度当初予算比で1.1%の減としております。

以上、令和4年度の市政運営の大綱及び主要施策等について申し述べ、私の施政方針とさせていただきます。よろしく御審議を賜り、可決いただきますようお願いを申し上げます。